

長島町唐隈地域地力増進対策指針

平成11年8月6日策定

1. 地力増進地域内の土壌の性質

本地域は、長島町の南西部に位置し、標高100m未満の台地で海岸に向かって緩傾斜をなしている。

土壌は母材が固結火成岩からなる礫質赤色土に分類される。土壌の化学性は塩基バランスが悪く、石灰含量等が少ないため酸性化しやすい。また、微量元素も不足している。土壌の物理性は作土直下に礫層がみられ、表土が浅く、下層土がち密である。また、粘着性が大きく、保水力は小さい。

2. 土壌の性質の改善目標

- (1) 腐植含量は3パーセント以上とする。
- (2) 土壌のpHは5.5から6.5までとする。
- (3) 加里飽和度は2から5パーセントとする。
- (4) 有効態リン酸含量は乾土100グラム当たり10ミリグラム以上とする。
- (5) 石灰飽和度は50パーセントから70パーセントまで、塩基飽和度は60パーセントから80パーセントまでとする。
- (6) 石灰含量と苦土含量の当量比は4から8までとする。
- (7) 主要根群域の有効水分は、15パーセント以上とする。
- (8) 有効根群域の最小透水係数は、1秒間当たり 10^{-4} センチメートル以上とする。
- (9) 有効根群域のち密度は、山中式硬度計で22ミリメートル以下とする。

3. 土壌の性質を改善するための資材の施用に関する事項及び耕うん整地その他地力の増進に必要な営農に関する事項

- (1) 石灰資材の施用は、石灰含量及び苦土含量の当量比を勘案して決定する。当地域は、交換性石灰及び苦土含量の不足割合が大きいので苦土石灰の施用が望ましい。
- (2) 加里飽和度が基準値以上の場合は加里施用量を減らし、加里含量の高い有機物資材は施用しない。また、除塩対策としてクリーニングクロープを導入する場合、収穫物は鋤込まずにほ場外へ持ち出す。
- (3) 有機物は未熟なものの施用を避け、完熟したものを施用する。また、緑肥作物を鋤込む場合は、十分な腐熟期間をとる。
- (4) 作土直下の除礫または表層への客土を行い、有効根群域を深くすることが望ましい。

4. その他地力の増進を図るために必要な事項

- (1) 土壌のち密化及び表土の流失を防ぐため、なるべく裸地期間を少なくし、緑肥作物等を導入する。
- (2) 有機物の確保に当たっては、畜産農家との連携を密にすることに努める。